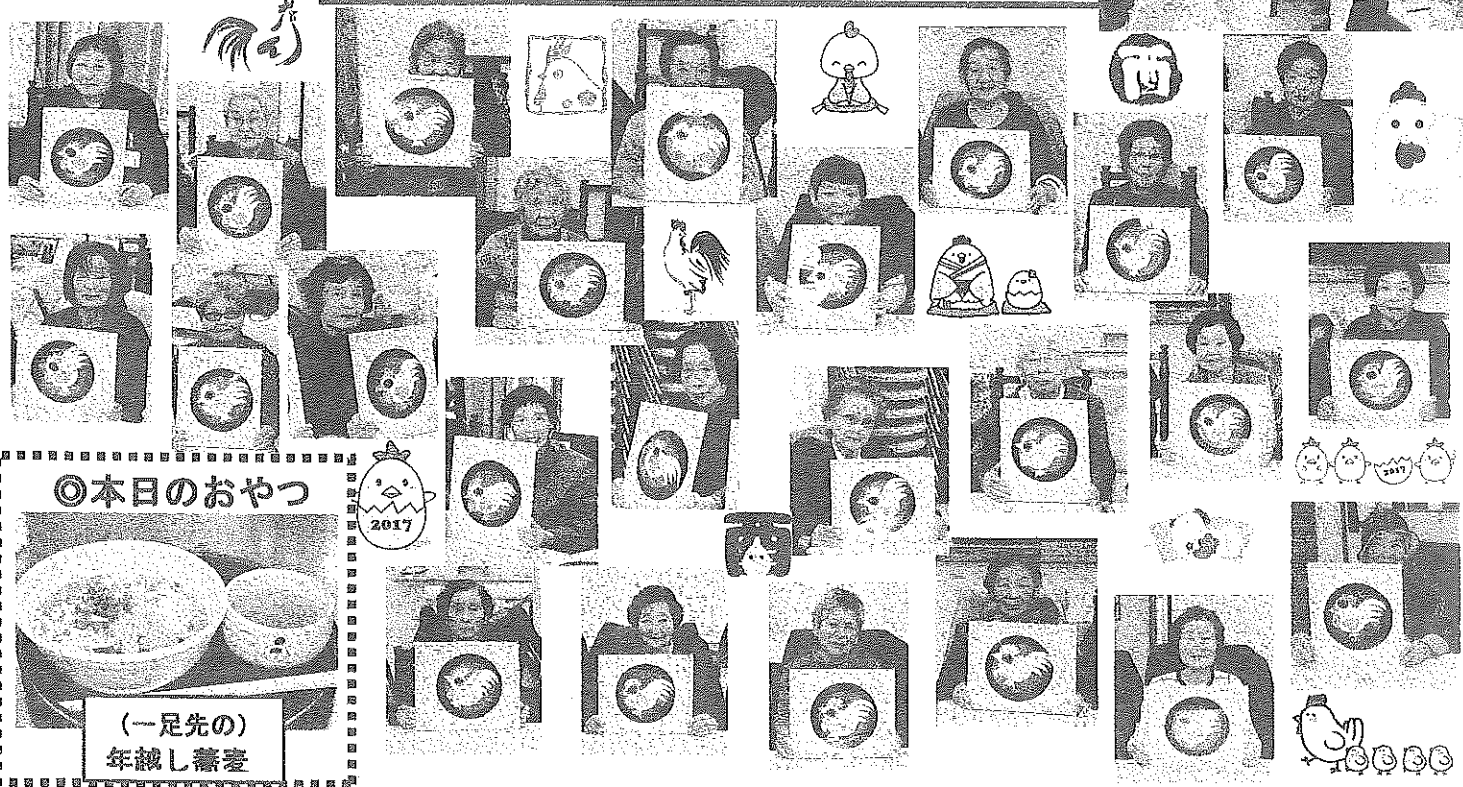
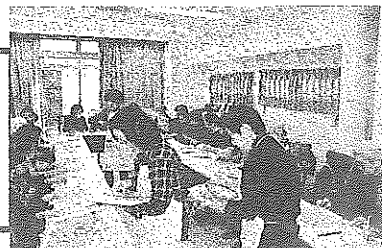


平成28年度の活動記録(12月)

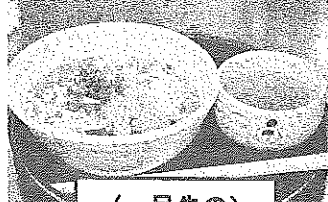
第16回(12月5日) ◎お正月の作品作り

参加者数
対象者：25名
協力員：15名

- 前回(11/21)に引き続き、お正月に飾れる干支(酉)にちなんだ色紙を作りました。(2回目・仕上げ)
- 生き生きのみなさん「とっても綺麗に出来ました」と大満足、お正月の来るのが楽しみです。



◎本日のおやつ



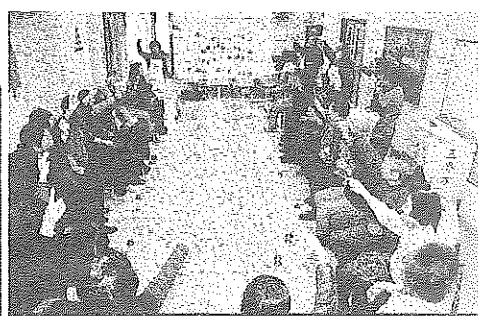
(一足先の)
年越し蕎麦

第17回(12月19日) ◎クリスマス会

参加者数
対象者：23名
協力員：13名



- 今年最後の生き生きクラブはみんなでクリスマス会を楽しみました。
- ハンドベルで「キラキラ星」「ジングルベル」「たきび」「富士山」を演奏し、ついでに少しだけ、手話でも「富士山」をやってみました。
- そうそう、グランドゴルフの「ホールインワン・ゲーム大会」もやりましたね。達成者にはポケットティッシュの賞品が出ました。
- とにかく盛りだくさんで楽しいクリスマス会でした。



ふーじは にーっぽん いちのーやまー



↑このたび福岡区の民生委員に就任した北川治子さんです。皆さんよろしくおねがいます。

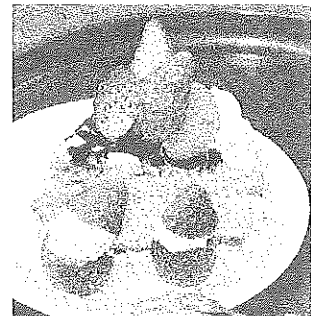


真直ぐにころがすのも難しいものです



鳴りやとこころを間違えないようにね

◎本日のおやつ



クリスマスケーキ

● 1月26日（木）は土用の丑の日です

土用の丑の日というと、「真夏にうなぎを食べる日」と言うイメージが強いと思いますが、実は春夏秋冬、土用の丑の日があります。では、冬の土用丑の日は何をしたら良いのでしょうか？やっぱりうなぎ？ 気になるので探ってみました。

● 夏だけではありません

土用は年に4回あり、冬の土用は立春前の約18日間で、2017年の土用の入りは1月17日、最後の日は節分の2月3日、そして翌日の2月4日は立春となります。

● 寒中丑紅（かんちゅう うしべに）

紅花を原料とした日本古来の紅は、寒中に製造されたものが最良ということで寒紅として珍重されてきました。ことに寒中の丑の日に売り出す紅が最も良いものとされ、丑紅の名がついています。また寒中丑の日に紅をつけると口より入る疫病や虫を殺すという俗説もあったそうです。（寒中とは、二十四節気の小寒の日から立春の前日（節分）までの約30日間のこと。今でもこの季節に口紅を売り出しているお店があります。）

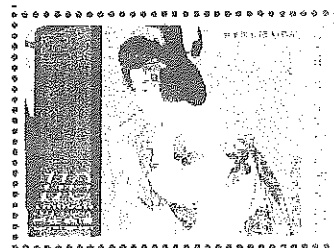
● 冬もうなぎ？

実はうなぎの旬は冬。うなぎの漁獲量・消費量が多い長野県岡谷市を発祥として、冬の土用の丑の日にもうなぎを食べる習慣を広めようとする動きがあるようです。旬の冬の土用の丑の日に、おいしいうなぎを食べるのもいいかもしれません。

スーパーなどでは、季節を問わずうなぎを売っていますよね。現代の日本では、季節に関係なく「土用の丑の日にはうなぎを食べる」、というのが定着しつつある習慣と言えそうです。

● 冬土用の丑の日には

プチ贅沢してうなぎを食べてもよし、女性の方は、新しい口紅を買うことを「冬の土用の丑の日」の新習慣にしても良いかもしれませんね。



丑紅を皆濃くつけて話しけり 高浜虚子

謹んで年頭のご挨拶を申し上げます

牧之原市議会議員 植田 博巳



“生き生きクラブ”の皆様方におかれましては、つつがなく笑顔で新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日ごろ皆さまの“生き生きクラブ”でのステキな笑顔と生き生きとした姿に、私も大いに元気をいただいております。ありがとうございます。

そのような皆さんが、息子さんやお嫁さん、お孫さん達と共に元気に健康で暮らせて、長生きが出来て、「本当に良かった、いい街だね」と思えるような街を作って行きたいと私は常々思っております。

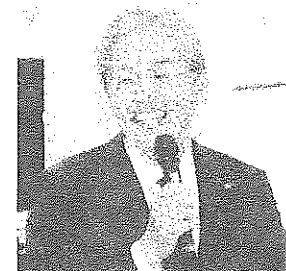
今年の干支は丁酉（ひのととり）で新たなものが作り出され、金運や商売繁盛であるとされています。また、「酉」は「取」となり、「取り入れる」、「取り組む」、「取り掛かる」に繋がるものでもあります。

このような年にこそ、市が抱える少子高齢化など多くの課題に新たな考えや仕組みを創造し、子育て支援や介護福祉の充実など、将来に夢と希望が持てる具体的な“将来のまちづくり計画”を策定し、「住みよい街造り」の第一歩としなければなりません。

議員としての活動をさせていただき始めて3年間、牧之原市の抱えるさまざまな課題解決に努めてまいりましたが、今後も、更なる大きな課題に一生懸命取り組み「この街に生まれ、育ち、結婚して、子どもを育て“この街に生まれてよかった”」と思える街を実現できるよう、全力で努めて参りますのでどうか皆さん、本年も なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

新しい年が更に良い年になるよう祈念致しまして、私の新年の挨拶とさせていただきます。

平成29年正月



なつかし記・さがら 子供たちのいる風景

お正月
静かな富士を背景に
羽子板、コマとにぎやかに

画と文 澤田 翰 (たかし) 氏



翰

皆様のご意見や思い出話をお待ちしております

相良今昔物語 澤田 翰 (たかし)

(先月号からの続き)

市川時計店跡は広瀬さんの駐車場になったけれど、時計商の市川さんは代々技術を売り物にして大時計は全て手造りで、外装の細工も御前崎の大工さんが何年かかけて彫り上げたもので、針や金具も全て手で打った板金仕事でした。座りっきりの仕事では健康に良くないと、海岸を一日に朝夕歩いて体調を整えて、特に眼は遠方を見る様にしていました。今の時代と違い、分解修理の腕は県下でも有数の方でした。

栗山石油隣のガレージは坂部半六さんの元屋敷で、石油井戸の開発に力を入れられ初代の相良区長さんになった方で、今又^{*}県会議員になられた半十さんの祖父にあたります。今では道の向かい側の大屋敷に住まれ、当主は学校にお勤めです。

ガレージには戦前から数多くの人々が住み、ある時は名倉堂眼科、松本屋旅館、喫茶店、貸本屋、ラーメン屋等めまぐるしく変わった場所です。保健婦、先生もいました。特に渥美先生は相高に永く勤められ剣道部、野球部の創立者で、西鉄ライオンズファンで、巨人三勝の日本シリーズに西鉄の勝ちを譲らず、とうとう四連勝で優勝した時の得意顔が思い出されます。

(原文のまま 次号へ続く)

※坂部半十 氏



明治40(1907)年~昭和43(1968)年 銀行マンから政界へ転身された方で、昭和22年相良町議に当選 同26年県議会へ進出され、その後3期12年間監査委員等の要職をこなし、「遠洋漁業の新興」・「中小企業金融」・「榛南地方の交通網整備」など県議会の重鎮として榛南地方の発展のために懸命に努力をされた方でありました。
「城下町相良区史」より

これからの いきいき予定

- 1月23日：昔の遊びで楽しもう
- 2月 6日：節分を楽しもう
- 2月20日：お茶会を楽しもう



相・福 いきいきだより
笑顔がいっぱい!!
2017年1月16日号

(通算第34号)

発行

相良・福岡 生き生きクラブ

編集

いきいきボランティア協力員